

## 《入選》

### 水と共に輝く未来へ

大阪府

大阪教育大学附属池田中学校

1年

高木 真優 たかぎ まゆ

私が住む地域には、いくつか水源地がある。生まれた時からずっと住んでいてこの場所は何だろうと感じたことはあったが、そこで水が湧き出ていると知ったのは、小学5年生の時だ。昔からずっとその地域に住んでいて、農家である祖父母に話を聞くと、祖父母の畑でも井戸を掘って汲んだ水を利用していると言っていたのでおどろいた。

そんな祖父母の畑では、毎年、様々な種類の野菜や果物が穫れる。苺、とうもろこし、じゃがいも、玉ねぎなど季節によって色とりどりの野菜が畑に並ぶ。その作物を収穫し、美味しくいただく。食べたものが、私たちが生活するための力となる。どれも当たり前だと感じてしまうが、「水」がなければ体験できないことである。

もちろん、祖父母の苦労や努力の力も大きいが、やはり水という存在の大きさは、私たちの想像をはるかに超えるものだと考える。

では、水は畑でどのような役割を果たしているのだろうか。まずは、種子の中にある乾燥した栄養分を溶かし出して、発芽させる役割。また、根から取り入れた栄養分を野菜のすみずみにまで運ぶ役割。そして、野菜の見た目や食感を良くしたり、実の栄養価を高める役割。このように水があるからこそできることを挙げていくと、改めて植物が成長するうえで水が必要不可欠なことだと気付き、貴重さを実感することができるのだ。

しかし、私たちはそんな貴重な水にありがたみを持ち、感謝することはできているだろうか。世界に目を向けてみると特に経済的・社会的な発展が遅れている途上国の中では、「安全な水」を確保できない国が多くある。また、安全な水を巡って紛争が起きる所もあるなど、時間が経つ程、水問題は深刻化している。そのため、水問題を他人事ととらえることなく、自にもできることを考えること、日々当たり前に水が使えていることに感謝することが大切なのである。

そこで、私は世界の水問題を解決するためにできることを考えてみた。いくら私たちが困ることなく使うことのできている水であっても、必ず限りがあり、実際に安全な水を確保できない人が世界には数えきれないほどたくさんいる。それは、今まで私たちが「水問題の解決策に取り組んでいる」と思いこんできたことも原因の一つだと、私は思う。深刻化した水問題を解決するには、やらなければならぬという気持ではなく「水の大切さ」を理解し真剣に課題と向き合う気持ちを持つことが大前提なのだ。その気持ちを持つて節水する人が増えれば、水問題の解決につながるきっかけになると、私は考える。

私は、身近に畑という水をたくさん使う環境があったからこそ、水の大切さについて深く考えることができたと思う。野菜や果物などの作物が成長する時でも、それらを食べる動物や私たち人間が生活してゆく時にも、水が果たす役割は重要なことで、なくてはならない存在となっている。なので、常に水に対するありがたみを持つて日々生活していくべきだと私は考える。

私たちの生活を支えている水のように、私も、一人でも多くの人が水に困らずいきいきと生活できる未来を作るための力になりたい。